

平成21年度 第17回 経営審議会議事要録

日 時 平成21年12月8日(火) 14:00～17:50

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長(学長)、宮崎理事
近藤理事(副学長)、松藤理事(副学長)、尾上理事(事務局長)、
石丸委員、岡田委員、高橋委員、安川委員
(奥村監事、清原監事)

配布資料

- 1-1 平成21年度 補正予算書(案)
- 1-2 主な研究プロジェクト(平成21年度)
- 1-3 国際環境工学部の外部研究費(平成21年度)
- 2-1 北九州市立大学に関する評価制度の概要
- 2-2 北九州市地方独立行政法人評価委員会
平成20年度業務の実績に関する評価結果について(概要)
- 2-3 認証評価に係る訪問調査の経過について
- 3 北九州市立大学の改革—概要、進捗と成果
- 4-1 第2期中期計画検討プロジェクト
- 4-2 第2期中期目標・計画策定スケジュール
- 4-3 第2期中期計画に係る基本的考え方(試案)
- 4-4 第2期中期計画・主要検討項目
- 4-5 北九州市立大学の第2期中期計画策定に係るアンケート調査結果(高校)概要版
- 4-6 北九州市立大学の第2期中期計画策定に係るアンケート調査結果 概要版
- 5 地域創生を実現する人材育成システム
- 6 学生支援の取り組みについて
- 7 外国との新たな交流について
- 8 平成22年度 運営費交付金及び施設整備補助金要求額
- 9 新型インフルエンザ対策

議事要旨

第1号 平成21年度 補正予算について

・平成21年度補正予算について説明

●目的積立金の取崩しは、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てることとなっているが、期末勤勉手当の減に充てるのは、該当するのかわ。補正予算の様式について、提示されている内容の方がより詳細であるが、年度計画添付の様式にあわせたらどうか。

○目的積立金の取崩しは予算上の数字合わせであり、目的積立金の取扱いについては、本中期

計画の最終年度となる来年度に、市の評価委員会の判断等を踏まえ、整理することになる。
書式については、検討する。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告事項

- ・ 事務局より、以下の項目について報告された。
- 1 外部評価の実施結果等について
 - ① 北九州市地方独立行政法人評価結果
 - ② 認証評価の経過
- 2 現中期計画の実施状況と課題・成果について
- 3 第2期中期計画の検討状況について
- 4 教育GPの採択について
 - ① 地域創生を実現する人材育成システム
- 5 学生支援の取り組みについて
- 6 その他
 - ① 外国との学生交流について

【第2期中期計画の検討状況について】

●危機管理はどこで行うのか。

○プロジェクト自体は中期計画を策定する委員会であり、危機管理の中身に関しては、プロジェクトの中で取り扱っていない。個々に関しては、既存の委員会があり、そこで考えていくが、実際の中期計画策定のなかで問題点等があれば、組織自体の見直しも含めて検討していく必要があると考えている。

●安全性・継続性を含めての検討を危機管理の中で取り組んでいただきたい。また、セカンドステージの中で、社会を担う個の育成・知の創造をスローガンとしている。そのなかで、大学としてリーダーを育成していく役割を担っていると思うが、どのように考えているか。

○リーダー育成に特化するかよりも、むしろどういう社会人を作っていくかを考え、8つの主要な観点の一番目に教育を取り上げた。それぞれの学部学科がリーダーという観点でどのような育成像を考えるかということが、次の6年間の主要な課題としている。

●大学として学生に社会、地域のリーダーとなれというような発信を是非していただきたい。

●学部ごとの計画を集めるような形になっているが、草案作成委員会の役割は何か。

○教育組織として学生をもっている部局で構成する委員会が部局検討委員会であり、メンバーは部局長で、そのもとにそれぞれの教員が所属するという形になっている。これが基本である。全学組織検討委員会というのは、全学的に亘るもの、管理運営検討委員会は、管理に関することや事務的なことに関することを扱っている。非常に多くの分野に亘った計画であり、教育や研究、社会貢献や管理運営でそれぞれ項目が変わるので、3つの各検討委員会で整理

しながら、それぞれについて提案し、この中期計画を作る。草案作成委員会は、その提案を全てに亘って集約し、まとめられるもの、分類されるもの、独自で行うもの、今回の中期計画には該当しないものなどを、基本方針としての8つの観点の下に作業を進めている。それが3月までの今年度の課題であり、進行形の状況である。

- これまでの取り組みのなかで、次の中期計画につながる課題があるのではないか。やれない問題、やった結果こうした方がよいという問題が消えているのではないか。
- 6月末に提出した認証評価のなかで、改善点を20数項目挙げており、それを全て取り込んでいる。改善点を出していないのではなく、それを基に作り上げ、更に外部評価での改善点があれば、それも取り込んだ形での中期計画の策定を進めている。
- 事務組織の支援体制と教員との動きが連動していない、2キャンパスの連携がうまく図れていないなど、詰めていくと整理されてくる。一人一人の教員が参画しないと、文書を作っても動かないことは確信しているので、計画を作る段階で何でも言ってもらい、そこから主要な論点を考えながら、時代の変化と成果と課題を合わせ、項目を作る。現状では、学部がかなり自由に議論しながらまとめていく段階である。最後は草案作成委員会と理事長、学長の縦のラインで少し形を整えていくことを行う。
- 目標が6年間となるとこの間柔軟な対応ができなくなることが考えられるが、著しい外部変化などに対してどのような対応をしていくことになるのか。
- 6年間の話も、あまり今のメンバーで詰めていくと動きが取れなくなるので、前半後半で分けながら、途中で修正していく。
- 中期計画を考える基本的な編成方針は、この6年間で何を強調するかという取り組みである。第1期の場合は、法人化といった大きな変革があったので、169という多くの項目があった。今度は、なるべく少なくしようという方針で、絞込みをしたい。国立大学を見ると40から90くらいまでの範囲で収まっているので、それを1つの目標と考えていきたい。絞るといえることがかなり重要である。
- その場合、政策に優先順序をつけるのか。プライオリティーは。
- 8つの主要な観点という考え方である。
- それは、共有化されている考えか。学部毎に変わるものか。
- 変わるものもあれば、共有的なものもある。全学的に揃えるもの、1つの学部でやらなければならないものもある。また学部が独自にやることもある。それらは並立すると思われる。
- できれば、共有化できることを希望したい。
- 大学はトップが代わることが、決定的に大きい。6年間継続して教育と研究を行っていることは事実であるが、プライオリティーの置き方が、全く違う。リーダーがどう選択するかで変わる話なので、右にゆれ、左に揺れながらも、それなりの戦略が出てくる。今の段階でそこまで詰めきれるかというところがあり、次のリーダーがしっかり決めたいと思う。
- 北九大生に何が足りないかという、パッションが足りない。そろそろ北九大のなかから、エースが生まれてきてもいいのではないかという気がしている。一見世の中の役に立たないようなことに、どれだけ情熱を持って取り組めるかということが、学生時代のいいところである。パッションの醸成と眠れる獅子を掘り起こせという課題を与えたい。

- 新聞記者の感覚で、第2期中期計画を記事に書こうとしたときに、見出しが思いつかない。
生き残りの競争の時代に入ったときに、今の時代感を北九州市立大学はどう見て、向こう6年間の戦略を立てようとしているのか。そこにひとつ具体的な価値観の立て方をされたらどうなのか。
- 人や金といったリソースをどこに張り付けるかを検討している最中である。個人的な意見で申し上げると、8つの主要な観点の筆頭にある教育を最重視し、教育機関の足腰を強化して、更に特色あるものをつくる、その方向性が、まず一番の課題になる。
- 大学の来期は、相当しっかりした底上げとブランドが必要。外から目立つブランドと全員が受益者として底上げされた教育を受ける話は、簡単に結びつかない。両方必要である。底上げをしっかりと行って、どこをとってもきちんとした人材を育成する話だと思う。そのうえのブランドであり、外から分かりやすいブランドを作ることが良い組織を作ることだと思わない。しかしブランドは必要であり、ブランドが3、ベースが7くらいで分けないと難しい。
- ある雑誌のランキングで北九州市立大学が、外国語教育に熱心であることが上位にランキングされていた。やはりイメージでいうと、外国語に強いことが、一つのイメージ・ブランドかもしれない。
- 毎年、社員が入ってくるが、基礎学力がしっかりした人間は、いろんなことに対応できる。そういう意味で本学が教育に重点をおくことは、一番重要で間違っていないと思う。その上で何を望むかは人によって違ってくるが、私はリーダー育成を重視したい。先ほど委員の発言の中に、人材の発掘と言われていたが、本学の学生のなかにもそういうリーダーシップを持っている学生がいるはず。そこを目覚めさせ、例えば、地域のリーダーになっていく、そこをもっと意図的に意識して、進めたら良いのではないか。リーダーシップの量は、能力や天から与えられたもので随分と形が違うかと思うが、知識プラスリーダーシップを持ち、それぞれがリーダーシップを発揮していると思えば、責任感にもつながる。その点が入っていればと思う。
- 今年、学群を創設して、地域のリーダーの育成を学群の理念として、そのような形のものが少しずつ、芽生えつつあるのも事実であると思う。それをどういう形で積極的に次の中期計画に盛り込むのかは、一項目として検討の余地がある。あるいは、ディプロマポリシーで各学部・学科で考える中でリーダーの育成というものをどういう風に捉えるか、議論する必要があるのではないかと思う。
- たとえば、入学した時に、君達は北九州市のリーダーだと言、言っていただけで、学生の意識も変わると思うが。
- 学生の時代認識が大分違う。面倒見のいい大学が、今最も要求される大学である。今これをやらなくては、選ばれる大学になり得ない。本学はそこを数年間教職員一体となって、相当程度行っているのでは、全く違った視点で見ていただきたい。